



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

GCC：カタールとサウジ、UAE、バハレーンとの不和の推移（GCC 外相会合の開催）

8月30日、ジッダで第132回GCC外相会合が開催された。会合開催前には、3月より継続しているカタールとサウジ、UAE、バハレーンとの不和に関して（経緯については「[カタール：サウジ、UAE、バハレーンによる大使召還](#)」『中東かわら版』No.288（2014年3月12日）、「[GCC：カタールからの大使召還問題で和解](#)」『中東かわら版』No.9（2014年4月18日）を参照）、今次会合で解決に至る見込みであると報じられていた。同日のAFPとのインタビューでは、アラウィー・オマーン外務担当相が「危機は解決された」、「（召還された三カ国の）大使はドーハに戻る」と述べていた。

しかしながら、外相会合の議長を務めたサバーハ・ハーリド・クウェイト第一副首相兼外相は記者会見において、これまでサウジ、UAE、バハレーンが要求していた事項をカタールが履行したのか、また、大使が近日中にカタールに帰還するか否かについて、明言しなかった。同第一副首相兼外相は「これまでに結ばれてきた合意の履行を通じて、これらの諸国の関係における不純物を速やかに取り除くための原則と基準を発展させることで合意した」とし、大使の帰還については「いつでも起こり得る」と述べるにとどまった。また、外相会合後に発出された共同コミュニケには、テロ対策やイラン、シリア、イスラエルによるガザ攻撃、イエメン、イラク、リビアといった外交問題に言及するのみで、GCC諸国間の事項については含まれなかった。

評価

今次外相会合の結果をどう見るかは、判断が分かれよう。8月30日付のAl-Arabiyaは記事のタイトルを「GCC states agree on mechanism to monitor group's cohesion」と合意があったことを強調し、Asharq al-Awsatは「تأجيل حسم الخلاف الخليجي القطري... ولا عودة للسفراء (湾岸諸国とカタールとの紛争の解決を延期：大使は帰還しない)」(8月30日付)として、最終解決には至らなかった点に焦点を当てた。

UAEのガルガーシュ外務担当国務相は公式のTwitterアカウント上において、「我々は、言葉と行動の両方で、亀裂を修復し、自信を回復し、瑣末な問題を越える責任を有する」と発言した。これは、カタールが4月のリヤード合意を実際に履行することを要求するものとして理解できよう。また、「合意の履行枠組みは（現在は）実施に移されている。我々の望みは、目的が達成され、危機を乗り越えることである」と述べていることから、全ての問題が解決したわけではないことも示唆されている。GCC諸国間の不和の最終解決には時間を要しているものの、8月にはサウジ・カタール間で要人往来が実現するなど、現在紛争は管理下にあり、これ以上亀裂が拡大する可能性はないだろう。

(村上研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799